

令和5年度 山形県立小国高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）					
校 訓	「自律・忍耐・向上」				
メインテーマ	「挑め、ともに！」				
学校教育目標	1 郷土に誇りと愛着を持ち、学び続けながらよりよい地域づくりに主体的に関わる人材を育成する。				
	2 健康で豊かな人間性を持ち、新たな価値創造に挑む人材を育成する。				
	3 多様性や個性を認め、他者を尊重しながら協働できる人材を育成する。				
学校経営方針	「生徒一人ひとりが輝く活気ある学校」を実現する。				
	*** 育成したい資質・能力 ***（学校教育目標の実現のために）				
	1 主体性 「自己理解・自己肯定感・学ぶ意欲・計画力・意思ある選択・創造的的市民性」				
	2 挑戦心 「情報収集活用力・課題設定力・共感力・思考力・創造力・行動力・やり抜く力・伝える力・振り返る力」				
	3 協働力 「受容力・対話力・共創力・持続可能性意識・グローバル意識」				
			達成度 A: 達成できた B: ほぼ達成できた C: やや不十分である D: 不十分である		

【分掌評価①】

重点目標	重点取組	分掌	重点取組に対する具体的方策	評価	年度末達成状況	学校関係者評価 (令和6年2月15日) 自己評価に対する評価
1 キャリアによる教育の推進 「資・体・能力・協働育的・学習活動」	① 国指定事業の発展・充実を図るとともに、教科学習と探究学習の往還や教科等横断的な学びを通し、目指す「資質・能力」の育成を図る。	教務 キャリア課	○教科等横断的な学びの実施について研究を重ねる。 ○国事業の目標設定に係るルーブリック・評価指標等を整備・確定し、各活動における育てたい資質・能力の重点化を徹底する。	B	教科横断授業を複数回実施し、来年度に向けて全教員での検討を行った。 ルーブリック・評価指標は引き続き検討が必要である。	・3つの取り組みについて特出しをしているので、学校評価の中にも項目として取り入れて進捗がわかるようにすることでより良い活動ができるのではと思います。 ・自己評価どおりほぼ達成できたことは評価できるものと思います。ただ、山大工学部での研究活動については、状況がわからないので申し訳ありませんが、難しいのであれば、評価指標から外すことも検討していいのではないのでしょうか。 ・先生方は楽しみながら教科横断授業の準備や実践をされたのでしょうか。 ・教科横断授業のルーブリックや評価指標はひとまずバージョン1を確定させていただきたいと思います。そして、ルーブリックは使いながら、少しずつ改善させていったほうが良いかと思います。 ・朝読書の貸し出し冊数が中間までは前年より増加していたのに、なぜ年度末になって減少したのか。他の要因があると記載されているが、実際は何が要因だったのでしょうか。 ・AI教材の利用は時代のニーズに合っている教育だと思うので継続して行っていただきたい。 ・教科横断授業の取組が昨年度よりも活発に行われている点が良い。 ・スタサブを利用した学習を白い森学習センターと協働で行っている事もぜひ来年度も継続していただきたい。スタサブも英検事前学習も参加者が少ないのが難点。 ・朝読書や読書会など本を読む機会をつくる活動は、毎年行っていると思いますが、これからもしっかり続けていただけるといいなと思います。読書は教養を深め、様々な可能性を広げてくれるものだと思うし、活字に触れる良い機会なので大切だと考えます。 ・ジグソー法など新しい手法を取り入れた取組みは、今後の教育にプラスとなり評価されると思います。 ・山大工学部との研究活動が中止ということでしたが、次年度は実現させていただきたい。
	② 主体的・対話的で深い学びの視点での授業実践と継続的授業改善を進め、学習意欲の向上を図りながら確かな「学力」を身に付けさせる。		○放課後学習の場や学習教材等の環境を整えとともに、学習への動機付け、意欲喚起の方法を探究する。 ○職員研修や授業研究、授業アンケート等を通して継続的に授業改善を呼びかける。 ○振り返りの機会を大事にし、学習の成果を再認識するとともに新たな目標設定を換気する。	A	職員研修等を通じて授業改善の呼びかけや、教科横断授業での知識構成型ジグソー法の実践を行えた。 進学希望者のための進学習目標達成プログラムとしてスタディサプリを利用した計画の作成と学習会を実施した。 各学期振り返りWSを実施した。	
	③ 地域や企業・大学等と連携したキャリア教育や体験的教育活動を推進する。		○3年間を見通した「白い森人育成プログラム」に基づき、各学年の発達段階に合わせた学びの機会を設ける。 ○白い森未来探究学の更なる充実と、休止している山形大学工学部での研究活動等の再始動を目指す。	B	「白い森人育成プログラム」に基づいたキャリア教育を実行できた。 山大工学部での研究活動は休止となり、教育課程や協定を含めた検討が必要である。	
	④ 個々の進路希望の実現を目指し、早期に意欲的・計画的に学習する姿勢を育てるとともに、ICTを活用した「個別最適な学び」の研究をさらに進める。		○朝学習の時間を利用し、ICT活用による学習習慣の定着を図る。 ○AI型教材の効果的な使用法を研究し、実践する。 ○マイブラン学習等、生徒が自立的に学び進める学習を研究し、実践につなげる。	B	朝学習の時間を利用して学年ごとにAI教材等を用いたマイブラン学習を実践した。 教科においては単元内自由進度学習の実践、その他各教科での授業実践や研修で得た授業方法の共有を呼びかけた。	
	⑤ 図書館を積極的に活用し、教養を高めるとともに豊かな心の醸成を図る。		○朝読書の徹底により読書週間の定着を図る。 ○校内読書感想文コンクール、読書会等の読書活動推進のための取組みを実施する。	B	朝読書や読書感動文コンクール、読書会等の取組みは行えたが、年間の本貸出し冊数は昨年より減少した。 貸出し冊数の減少には他の要因もあり、来年度の取組みについて検討が必要。	
	⑥ 読書活動の充実を図る。		○読書活動の推進を図る。			
2 きめ細やかな生徒指導の充実	① 基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成、また、特別支援体制の充実を図る。	生徒 保健課	○検診の結果や保健室来室状況を生徒にフィードバックし、必要に応じて医療機関へつなぐ。 ○保健室来室時には、生活振り返りシートを活用し、保健指導を実施する。 ○生徒への目配りや声掛けを行い、特別支援も含めて個に応じた対応ができるよう体制を維持する。 ○日常的に、学校保健委員会・MC特支委員会の構成員との連絡を密にする。	A	○認知したものの対応を100%行った。振り返りシートを用いた問診を行い、症状や生活習慣に合わせた保健指導を行った。 ○校内特別支援教育研修を実施し、個に応じた指導・支援の検討を行った。 ○MC特支委員会(2件)を開催し、必要な支援について検討を行った。	・協調性、思いやり、言葉遣い、挨拶等、社会に出てから学ぶべきことも含め人形形成する上で非常に重要であると思います。学校として出来ることを今までと同様に対応して欲しいと思います。 ・自己評価どおりほぼ達成で、素晴らしいと思います。今後の成果指標として、アウトプットだけでなくアウトカムの指標も検討されてはいかがでしょうか。 ・先生方は、生徒一人一人のことをよく観察して対応されていることが良く分かります。 ・放課後活動の充実については、年度末達成状況に記載されているとおり、活動経費や安全面の配慮などを整備する必要がありそうです。 ・健康相談への対応率100%達成ということで、達成できたことは素晴らしいことだと思います。対応率は100%出来たが、その後の部分(病気等、個人情報が入る為難しい部分ではあると思いますが)が分かるようになってくると良いと思います。 ・生徒保健課の評価は全体的高いので、これを維持または向上するよう継続して頂きたい。 ・放課後サークル活動のゼロ年度ということで、色々な活動を地道に慎重に行っている様子がわかる。木工部でも活動場所や内容を含め、かなり柔軟に対応して頂き感謝している。任意となる中学校の部活動との連携を図り、小国町独自の放課後活動へとステージアップできると望ましい。 ・生徒個人の対応は充分にできています。 ・放課後活動の充実については、地域の更なる理解が必要と思うので、難しいところもあるので時間を掛けて関係を築いてほしい。
	② あいさつの励行と規範意識を涵養する。		○生徒会執行部や生徒委員会(HR生活委員会)等が中心となり、生徒主体であいさつし合う活気ある雰囲気醸成を図る。 ○集会やホームルーム等、様々な場面でルール・マナーについて考えさせる。	B	○あいさづいでい(毎週木曜、生徒会の挨拶運動)や挨拶運動(ホームルーム生活委員会)を活発に行っている。 ○ルール・マナーについて、全校集会等で全校生に呼びかけ、自身の行動を考える機会を設けた。	
	③ 学校行事やボランティア活動等への主体的な取り組みにより生徒一人ひとりの自己有用感を醸成するとともに社会とのつながりを意識させる。		○学校行事(クラスマッチ、小国フェス、小規模校サミット)において、生徒主体での企画・運営を行い、生徒とともに試行錯誤して実施する。 ○ボランティア活動や各種コンテスト、地域協働活動等を推奨し、生徒に活躍の機会を数多く紹介する。	A	○クラスマッチや全国高校小規模校サミット、小国フェスでは、生徒主体での企画・運営ができた。 ○ボランティア活動や各種コンテスト等の小まめな呼びかけや必要に応じて交通手段等のサポートを行うことで、生徒の積極的な参加につながった。	
	④ いじめのない学校を目指し、継続的にいじめ防止対策を徹底する。		○様々な場面で自他を大切にできる心の醸成を図る。 ○日々の生徒との対話の機会を大事にし、いじめの早期の発見と対応を図る。(いじめ防止グループ討議年1回、生徒アンケート年2回)	A	○6/2生徒会主催でのいじめグループ討議を行い、SNSいじめをテーマに全校生で考えを深めた ○6/30、11/28いじめアンケート・学校生活アンケート①②を実施。生徒保健課が中心となり、学年と連携しながら全てに対応した。	
	⑤ 地域と連携しながら放課後活動の充実を図る。		○校内サークル活動の整備や地域での活動機会の紹介を行うとともに、生徒のニーズと地域の取り組みをつなげる。	B	○町魅力化推進室やコーディネーター、CS委員等が中心となって、サークル活動(はたけ、木工、エモいフォト、スイーツ、生徒募集・交流)を推進していただいた。 ○活動経費や安全面の配慮等、動きながらではあるが、次年度に向けて整備していく必要がある。	

令和5年度 山形県立小国高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）	
校 訓	「自律・忍耐・向上」
メインテーマ	「挑め、ともに！」
学校教育目標	1 郷土に誇りと愛着を持ち、学び続けながらよりよい地域づくりに主体的に関わる人材を育成する。
	2 健康で豊かな人間性を持ち、新たな価値創造に挑む人材を育成する。
	3 多様性や個性を認め、他者を尊重しながら協働できる人材を育成する。
学校経営方針	「生徒一人ひとりが輝く活気ある学校」を実現する。
	*** 育成したい資質・能力 ***（学校教育目標の実現のために）
	1 主体性 「自己理解・自己肯定感・学ぶ意欲・計画力・意思ある選択・創造的的市民性」
	2 挑戦心 「情報収集活用力・課題設定力・共感力・思考力・創造力・行動力・やり抜く力・伝える力・振り返る力」
	3 協働力 「受容力・対話力・共創力・持続可能性意識・グローバル意識」

達成度
A:達成できた
B:ほぼ達成できた
C:やや不十分である
D:不十分である

【分掌評価②】

重点目標	重点取組	分掌	重点取組に対する具体的方策	評価	年度末達成状況	学校関係者評価 (令和6年2月15日) 自己評価に対する評価
3 安心・安全かつ信頼される学校づくり	① 学校・家庭・地域が一体となった活力ある協働関係を構築する。	総務広報課	○各種会議への参加を含め、地域行事や学校行事等で互いに協力し合う。 ○生徒の諸活動の活性化に繋がるよう、後援会と連携を図る。	A	○高P連理事会・県高P連研修大会・全国高P連仙台大会・地区高P連研究集会・町PTA連絡協議会など、数多くの会議・行事に、精力的にご参加いただいた。 ○後援会の特別会費も地域企業の篤志を頂戴している。感謝申し上げたい。	・特に危機管理の部分になりますが、今の世界情勢はいつ何が起きてもおかしくない時代です。ニュースを見ても、会社で生活する中でも危機管理が重要になってきます。弾道ミサイル防災訓練のように、いざというときの行動ができるように訓練するといったことも継続して対応して戴きたいと思います。 ・自己評価どおりほぼ達成で、今後も継続していただければ、と思います。 ・アスモの掲示版が改善され、CN含め関係者の尽力が見てとれた。 ・サミットでの食事提供は、小国町開催となった場合には積極的に参加したい。 ・山吉PTA会長を中心にしてPTAが積極的に学校に協力していることが見て取れます。この協力関係を次年度も継続していただきたいと思います。 ・総務広報課はあいさつ運動の部分だけ評価を落したが、全体的に目標を達成できたことは良かったと思います。 ・あいさつ運動の達成率55%がやたらと悪いように目立つが、100%というのはなかなか難しい(様々な家庭がある為)と思うので、90%台を目指せるように色々工夫が必要だと思います。 ・安心安全については、小国高校にいうことはありません。 ・学校行事に沢山の保護者や地域の方にきていただきたい。コロナも一段落し、次年度はもっと盛んに交流の場を提供していただきたい。
	② PTA活動を通して家庭・地域と連携を強化する。		○朝のあいさつ運動(10月まで基本的に第3週)及び専門部(広報・体育文化・校外研修)の取り組みを継続し、PTA全体で生徒の活動を支援する。	B	○年間15回のあいさつ運動を計画・実施した(そのうち、1回は感染症対策のため中止)。参加率55%。目標には届かなかったが、生徒の健全育成という目的も達成したうえに、生徒と保護者・保護者同士・保護者と教員の交流の場ともなり、充実した活動となった。 ○サミットや小国フェスにおける昼食協力(文化体育部)に御協力を頂いた。	
	③ 特色ある教育活動や生徒の活躍を積極的に発信し、学校の魅力を外部に伝える。		○OPTA会報「よこね」を発行する。 ○CNと連携して、アスモの掲示版でも学校の取り組みを紹介する。 ○学校HP・SNSで生徒の活動を適宜紹介していく。	A	○「よこね」は3月発行予定。 ○アスモの掲示版は、適宜CNが更新し、地域の方に広くお知らせできた。 ○HPやFBで生徒の活躍を多くの方にご覧いただいている。	
	④ 危機管理体制を維持し、事故防止に努める。		○毎月初めの学校安全の日には安全点検を行い、環境整備に努める。 ○危機管理マニュアルの見直しを行うとともに、必要に応じて、適宜確認を促す。 ○外部機関と連携して、防災訓練を行う。	A	○安全点検100%達成。 ○危機管理マニュアルは、電子改訂版作成中。 ○防災訓練の実施や全校集会での呼びかけ等で、防災意識を高められた。	
4 教職員の協働の体制の維持と資質向上、	① 各種研修を通し、同僚性を高めるとともに、教員の指導力の向上を図る。	学校全体	○定期的に「白い森人」研修を行うことで、資質の向上並びに職員の目線の一致を図る。 ○面談時だけでなく普段から研修に対する助言を行うとともに教育センターの研修について声掛けを行う。 ○授業アンケートや授業評価等により、指導を振り返り、指導力の向上につなげる。	A	校内研修を予定通り実施することができ、職員間の共通理解が図られた。 先生方の研修への意欲が高く、積極的に研修に取り組むことができた。 授業アンケートを実施し、各教科とも授業改善につなげている。	・少ない人数で素晴らしい成果をあげていると思います。若い世代、これからの社会を担う世代の育成をお願いします。ただし、教える側の体調管理が重要になるので、無理せずよろしくをお願いします。 ・自己評価どおりほぼ達成でしたので、評価できるものと思います。時間外勤務超過については、個別面談などをされているのでしょうか。(上司も含め) ・業務の削減や整理がうまく進んでいると感じている。以前は土日でも先生の車が駐車場に見られるなど、多忙なイメージがあったが、最近は忙しい中にも余裕が見てとれる。 ・業務改善に取り組まれ、形骸化された可能性のある行事を1つ削減できたことは素晴らしい成果です。 ・年次有給休暇5日以上 の取得が行えなかった方が1名いたことは大変残念に思います。来年度は全員が必ず確実に年次有給休暇5日以上 の取得をしていただきたい と思います。 ・年休が10日以上 付与される人は5日間取得しないといけない義務となっているので、未取得者に対してはなんとしても取得できる体制を取るべきだと思います。諸々の事情が分からないので記載させて頂いておりますが、法律で決まっている案件です ので正すべきだと思います。 ・教職あつての学校運営なので、先生方には体と心を万全な状態で務めていただきたい。次年度は年度末オールA評価を達成していただきたい と思います。
	② 業務改善と適正なワークライフ・バランスに努める。		○学校や教員が担うべき業務とそうでない業務の仕分けを行うことで業務量の適正化を図る。	A	昨年度実施した行事1つを削減し、必ず開催する委員会を必要に応じて開催した。	
	③ 休暇を取得しやすく、ストレスを和らげる職場環境づくりを推進する。		○職員間のコミュニケーションの促進により、全職員による仕事の分業化(集中化を防ぐ)を目指す。	B	年間年休取得5日以上の教職員は全体の92%(未取得1人) リフレッシュ特休該当職員の取得率40%(2日/5日)	
	④ 教職員一人ひとりが働き方改革に対する意識を持つ。		○勤務時間を確実に掌握することで職員それぞれにあった業務遂行に対する助言を行う。 ○自分の勤務時間を認識するために出勤時間の日常的なe教務への入力を促す。 ○日常的に定時退校の声掛けを行う。	A	時間外在校等時間が前年度より 10%以上縮減できた教職員は全体の85%(未達成は2人) 半期の時間外在校等時間の月平均が 80 時間を超える教員数は0人(R4:0人) 年間の時間外在校等時間の月平均が 45 時間を超える教員数は2人(R4:6人)	